

## 18 いわたの復興教育

### 「いわたの復興教育」とは？

「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するために、各学校の教育活動を通して、3つの教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）を育てること」です。

#### 1 意義

子どもたちが、「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方・あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造すること」ができるように、県内全ての学校で取り組むことに大きな意義があります。

少子高齢化、高度情報化、グローバル化の進展など社会状況が大きく変容する中においても、苦しい時をみんなで手を携えながら乗り越えてきたという経験を語り継ぎ、それを大きな自信として、未来に向かって様々なことに挑戦する子どもたちを育てます。

#### 2 進め方

##### (1) 「いわたの復興教育」プログラムに基づく教育活動の推進

震災津波の体験から得られた3つの教育的価値と具体の21項目からなる教育的価値一覧表に基づいて取り組みます。

「いわたの復興教育」の教育的価値一覧表	
3つの教育的価値	具体の21項目
1 「いきる」について <ul style="list-style-type: none"> <li>●命の大切さや自然や畏敬の念に関する事</li> <li>●心のあり方、これからの生き方に関する事</li> <li>●心のサポートに関する事</li> <li>●体力の維持・増進など、身体の健康に関する事</li> </ul>	①～⑦
2 「かかわる」について <ul style="list-style-type: none"> <li>●家族の絆や家族の一員としての喜びに関する事</li> <li>●互いに助け合ったり、思いを寄せ合ったりする仲間や地域の方々に関する事</li> <li>●災害後の支援活動における県内外や各国間とのつながり（絆）に関する事</li> <li>●地域づくりに関する事</li> <li>●自然とのつながりに関する事</li> </ul>	⑧～⑭
3 「そなえる」について <ul style="list-style-type: none"> <li>●震災津波体験（情報・ライフラインの途絶等）や科学的知見・防災リテラシーを踏まえた防災に関する事</li> <li>●災害時の行動に結びつく判断に関する事</li> <li>●災害を想定した日頃の備えに関する事</li> <li>●非常時に生き抜く知恵と衣食住の技能に関する事</li> <li>●災害について学ぶ事</li> </ul>	⑮～㉑

## <具体の21項目>

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| ①かけがえのない生命          | ②自然との共生             |
| ③価値ある自分             | ④夢や希望の大切さとやり抜く強さ    |
| ⑤自分の成長              | ⑥心の健康               |
| ⑦体の健康               | ⑧家族のきずな             |
| ⑨仲間とのつながり           | ⑩地域とのつながり           |
| ⑪ボランティア・救援活動        | ⑫自分と地域社会            |
| ⑬復旧・復興のあゆみ          | ⑭災害に備える地域づくり        |
| ⑮自然災害の様子と被害の状況      | ⑯自然災害発生メカニズム        |
| ⑰自然災害の歴史            | ⑱災害のライフライン・地域経済への影響 |
| ⑲災害時における情報の収集・活用・伝達 | ⑳学校・家庭・地域等での日頃の備え   |
| ㉑身を守り、生き抜くための技能     |                     |

復興教育を、学校の教育活動に位置づけ、教科、領域における幅広い取組としており、地域の実情や児童生徒の発達段階を考慮しながら、児童生徒一人一人に3つの教育的価値を育みます。

- (2) 学校と家庭、地域、関係機関・団体等と連携した取組の推進  
各学校は、地域の実態等を踏まえ、家庭、地域、関係機関・団体等の連携するしくみを確立し、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」を目指します。
- (3) 「いわての復興教育」副読本、「いわて震災津波アーカイブ ～希望～」等の活用  
各学校、各教科・領域等の通常の教育活動において、事前・事後学習等で、副読本「いわて震災津波アーカイブ～希望～」等を効果的に活用します。  
また、「いわての復興教育」絵本について、各学校、家庭、地域、関係機関・団体等が連携し、発達段階に応じて、読み聞かせ教材等として活用します。
- (4) 「いわての復興教育」は、自然災害のみならず、様々な困難な事象への対応に関連づけ、その課題解決に向けた取組や活動について、地域の状況に応じて考えたり、調べたり、話し合ったりしながら協働して学ぶことができます。

### ※いわての復興教育 Web ページ

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/fukkou/index.html>

